

次の資料にもとづいて、CMCの連結キャッシュ・フロー計算書（間接法）を作成しなさい。なお、当期は×2年3月31日を決算日とする1年である。また、キャッシュ・フローの減少項目には「△」を付すこと。

[資料 1] 連結貸借対照表

連 結 貸 借 対 照 表					
×2年3月31日					
(単位：円)					
借方科目	前期末	当期末	貸方科目	前期末	当期末
現金及び預金	1,000,000	1,430,000	仕 入 債 務	570,000	540,000
売 上 債 権	679,000	776,000	短 期 借 入 金	272,000	240,000
棚 卸 資 産	300,000	280,000	未 払 費 用	3,000	2,000
有形固定資産	3,000,000	2,600,000	未払法人税等	280,000	240,000
の れ ん	95,000	85,000	資 本 金	2,570,000	2,570,000
投資有価証券	585,000	600,000	利 益 剰 余 金	1,564,000	1,641,000
			非支配株主持分	400,000	500,000
合 計	5,659,000	5,733,000	合 計	5,659,000	5,733,000

[資料 2] 連結損益計算書（抜粋）

連 結 損 益 計 算 書 (抜粋)			
自×1年4月1日 至×2年3月31日			
(単位：円)			
貸方科目	金額	貸方科目	金額
支 払 利 息	30,000	受取利息配当金	50,000
法 人 税 等	340,000		

[資料 3] 解答上の留意事項

1. P社は×2年3月現在、S社の発行済議決権株式の70%を所有し、これを子会社として支配している。のれんの償却は定額法で行っており、当期にのれんは発生していない。
2. S社はP社に仕入価額の110%で販売しており、P社のS社から仕入れた商品の在庫が期末に220,000円ある。
3. 売上債権の期末残高に対して每期3%の貸倒引当金を設定している。当期に貸倒損失は発生していない。
4. 貸倒引当金および減価償却累計額は対象資産から直接控除している。
5. 当期において有形固定資産の売買および除却は一切行っていない。

6. 投資有価証券はすべて当社の関連会社である A 株式会社であり、連結財務諸表の作成にあたって持分法を適用している。なお A 社は当期において利益剰余金の配当を行っていない。
7. 未払費用はすべて支払利息に係るものである。
8. 当期において子会社株式および関連会社株式の追加取得や一部売却等は一切なかった。
9. 当期の連結キャッシュ・フロー計算書における税金等調整前当期純利益は 700,000 円であった。
10. 利息および配当金の受取ならびに支払額は、営業活動によるキャッシュ・フローの区分に記載している。

解答

連結キャッシュ・フロー計算書

自×6年4月1日 至×7年3月31日

(単位：円)

I 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益	()
減価償却費	()
のれん償却額	()
貸倒引当金の増加額	()
受取利息及び受取配当金	()
支払利息	()
() による ()	()
() の増加額	()
棚卸資産の減少額	()
仕入債務の減少額	()
小計	()
利息及び配当金の受取額	()
() の支払額	()
法人税等の支払額	()
営業活動によるキャッシュ・フロー	()